

最 優 秀 賞

きれいな水が世界中に届きますように

水戸市立第四中学校

三年 ヒア キネイサ

きれいな水が当たり前だと思っていました。

私は数年に一回、祖父母を訪れに帰国することがあります。都会な日本を離れ、自然に囲まれたインドネシアへ。行き先は田舎でしたが、豊かな自然に囲まれて過ごすことは憧れでもありました。けれども実際に過ごしてみると、衝撃を受けたことがあります。

日本では、料理をするときも水道水を使います。お風呂のときも、ずっときれいな水がでてきて安心です。けれども現地の人には料理で水道水を使うことはありません。ここでは、水道水からずっときれいな水がでてくるわけではないのです。そのためシャワーを浴びるときも突然濁った水や砂利を含んだ水

が流れにくることもありました。このときに私はきれいな水が当たり前ではないことを知りました。

もし、世界中の水が汚染されたら、どうなるのでしょうか。私達の健康はいつまで保たれるのでしょうか。人の健康だけではありません。汚い水で生きる魚や育つ家畜、野菜はどうでしょうか。私達の食べ物にも影響がでてしまいます。日々の生活で、例えば洗濯するとき、洗ってくれる水が汚かったら意味がありません。きれいな水は私達の健康から生活まで支えてくれています。

また、私は下水道の大切さも感じました。日本では使われた水は極力きれいにしてから海に流します。けれどもインドネシアでは使われた水はそのまま川に流されていました。街を流れる川は濁り悪臭を放っています。汚れた水はきれいになることなく、逆にきれいな水を汚していました。

世界には、汚れた水で苦しむ人がたくさんいます。ある国の貧しい子供は、生きるために汚い水を飲み死んでしまいました。水は、状態によって健康を守るものにも、命を奪うものにもなってしまうのです。

どうすれば、インドネシアでもきれいな水が当たり前のように流れるのでしょうか。私は、日本とインドネシアでは環境への意識の差が大きいことに気がきました。日本では自分のゴミに責任を持つ人が多く、ポイ捨てをする人は少ないです。それに対してインドネシアではポイ捨てを悪いと思う人は少なく、街では道端などに転がるゴミが後を絶たず、川に浮いている缶やペットボトルは減るばかりか増え続けています。それを見たとき私はショックを受けました。

きれいな環境を保つことは、きっときれいな水をつくり、保つことにつながると思います。そのためにはまず、一人一人の環境への意識や行動が欠かせません。それは、インドネシアだけではなく、世界中の国々もそうだと思います。

水は私達が生きる上で欠かせない存在です。水の代わりになるものは、私はないと思います。だから、私達は水を守らなければいけません。無駄使いすることなく大切に。汚れた水をきれいに、そしてその水をいつまでも続くように。

もし、世界中の水がきれいになり、世界中の人々がその水で生きれたら、どんなに素敵でしょう。安心して水道水を使うことができ、貧しい子供達は何も恐れず水を飲むことができます。笑顔も増えるのではないのでしょうか。そんな日がいつか来ることを願って。

きれいな水が世界中に届きますように。